



プラス1万人達成で見えてきたもの

多くの人々の協力で、プラス1万人が達成されました。人間は追いつめられると予想外の力がでると言われますが、今回の八丈町のとりくみは、まさに崖っぷちの危機感ゆえに力を発揮することができたのだと思います。そこには若い世代の頑張りもあり、これからの町づくりにとって大きな収穫でした。ここでこれまでの取り組みの中から反省点、課題をあげてみました。

●**二つの企画** プラス1万人の達成が厳しくなっていた頃、臨時議会では対応策が協議されました。議員から様々な建設的な意見が出されましたが、特効薬になるほどの効果は期待できないとして、町は専決処分での二つの企画を実施しました。

その一つが、小フル剤として出された、小学生(高学年)と中学生の「大島体験学習」。その予算、514名で約1800万円。1万人達成には多大な効果がありました。妥当性に加えてその費用が全額町負担であったことに対して、私を含め議員から疑問が投げかけられました。この「大島体験学習」は一時的なものでなく継続的に実施するのですが、なぜか今年度予算に計上されていませんでした。理由は4～6年生までのどの学年で実施するかは今後検討するからという答弁でした……?



もう一つは1000円相当の地域振興券の発行。八丈―東京間の搭乗券(公務を除く)の半券と交換で振興券がもらえるというもので、多くの住民に搭乗の機会を増やしてもらう目的で実施されました。「おじやいやれハガキ」をもっている来島者も交換でもらえました。予算約1200万円。私は昨年12月議会で、大島経由便の極端に低い利用率を大幅に改善するために、この便の利用者に片道2000円の補助を出すよう提案しました。経由便を積極的に使うことで残りの直行便は観光客にゆずるよう考えたからです。このとき町は「全く考えていない」と言い切りましたが、結局最終段階になって、適用範囲を全便に広げ、額は1000円で実施しました。これは私が提案した趣旨と同じ施策ではないでしょうか。もっと早く経由便対策をとるべきだったのではないのでしょうか。

●**今後の航空路はどうなるの** 不便な大島経由便とセットで実現した全便特割適用運賃。今、住民はその恩恵に浴しているものの、それがいつまで続くのか、10月以降は値上げになるのか、大島便は存続するのかわからない不透明です。同時に食料品や生鮮品を扱う業者や農業関係者からは、不便になって困るといふ声も聞かれ、現行の運行体制は島の生活と産業全体に大きく影響を及ぼしています。プロジェクトの目標達成で、全日空との交渉に有利な条件が整いました。今後どのように交渉していくのか、町の力量が問われています。全員協議会でも議員から様々な意見が出されました。私は、経由便による不便さと経済的打撃を考えると、当面の経由便対策と元の4便体制に戻す対策が必要だと強調しました。全日空と交渉にあたる際、議会の意向を最大限いかすよう議長に一任しましたが、町と議会が一体となって慎重に粘り強く交渉を続けていく必要があります。

予算審議から……私の発言を中心にとりあげました

●**東海汽船の積荷問題** 毎年3月は異動で多くの人や貨物が動く時期です。引越しの荷物、生鮮品、農水産物が山のようにたまっているのに、スムーズにさばりません。東海汽船は「たびたび欠航で滞ってしまう。臨時的な貨物チャーター便などで対応しているが、一回に積めるコンテナの数にも限りがある。」とコメント。町長からは議員が直接働きかけると効果があるのではなからしいとの助言(?)もいただきましたが、これはやはり毎年のことなので、システムとして確立しておくべき問題です。



●**し尿処理施設適地選定委託料300万円** 適地を選ぶということは、施設規模や周辺の土地環境も想定していることだと思います。業者に委託する前に、町にふさわしい施設はどんなもので規模はどれくらいなのかを考えるべきです。私は、住民の要望を吸い上げるような組織をつくり、議論を重ねながら本当に町にあった施設をつくってほしいので、そのために今年度中に審議会をつくるよう要望しました。

●**事業系ごみの有料化** 役場の不手際で、事業者からの徴収が徹底されていなかった事業系のごみ。議員に指摘され2年前から徹底されました。対象事業者は約200件から600件近くになり、徴収額は87万円から約200万円も増収になりました。町は無駄遣いをなくすとともに、一方できちんと徴収することを忘れてほしくないものです。

●**処分場建設の行方** 管理型最終処分場の予定地は地権者との交渉が行き詰まり、ついには中之郷での建設は中止されることになりました。この事業については、用地の選定をめぐって、住民の反対運動や議会での議論がありました。予定地が決まっても地権者との交渉で3年近く経過してしまいました。今回来島した東京都島嶼町村一部事務組合の幹部は議員に謝罪はしたものの、結果責任を問われることはなく、納得できませんでした。今後、計画を白紙に戻すというのですが、オープン型でつくる計画は変えないとの答弁でしたので、住民が納得する用地選定はかなり困難になるでしょう。町から出る焼却灰は当面、大島に搬入することになり、もちろんそのために町が負担する費用もかなりの額になります(今年度2500万円)。



●**多目的施設** 雨の多い八丈島の観光対策で、いつも話題になるのが「雨の日にするのがない」という指摘です。町はその要望を受けて、中之郷温室団地展示施設の横に様々なイベントができるような多目的施設をつくり、中之郷を観光の拠点にしようと考えました。雨の日対策として有効に機能するよう期待したいものです。

ヘルシーフェスタ開催中、エコアグリマートに行ってみました。雪にもかかわらず観光客でほどほどにぎわっていました。ふと見ると、温室の隅に大型冷蔵庫のような簡易トイレが1つ置かれていて、ご婦人が並んでいました。トイレひとつで観光地の印象が悪くなりたくないかと身が縮む思いでした。観光客の半数以上は中高年の女性といわれています。この多目的施設には、十分な広さのきれいなトイレをつくるよう町に要望しました。もてなしの精神は隅々まで行きわたってこそ伝

わるものですから。

3月議会一般質問 (2006年3月22日)

1. 戦争遺跡の保存と利用について

八丈町には、太平洋戦争の爪あとがいくつか残っています。当時の宿营地や地下壕などの遺跡は時の経過とともに風化していきます。悲惨な戦争を繰り返さないために、それらの保存に取り組む、平和学習として活用し次世代に伝えていくことが重要だと思います。

(1) 戦争遺跡の保存状況をどう捉えていますか。

(2) 小中学校でどのような平和学習をしていますか。

佐々木教育課長 (1) 戦争遺跡はあるが文化財として指定はしていない。保存には莫大な費用がかかるので、今後文化財専門委員会がなかで検討したい。(2) 小学校は社会科の副読本、遺跡見学、戦争体験者による講話を、中学校は広島原爆ドーム見学を実施している。

奥山 町は平和学習を実施しているとのことですが、さらに生きた平和学習をすすめてほしい。憲法をめぐる様々な動きがある今だからこそ、戦後60年間戦争を起こさなかった日本の、今後あるべき姿を考える上で重要だと思います。戦争遺跡の保存状態はきわめて悪く、このままでは朽果てていくのは必至です。とくに底土の回天、三原山の鉄壁山、神止山などの戦争遺跡は住民の共有財産と考え、保存をすすめるべきだと思います。富士中では鉄壁山の見学を毎年実施しています。比較的安全な部分は補強修繕し、危険箇所は立ち入り禁止にするなどして少しずつ整備できないでしょうか。また防衛道路や記念碑も平和学習に取り入れてほしいと思います。

佐々木教育課長 鉄壁山の壕は老朽化がすすみ、危険な場所もある。安全性も含めて専門委員会の方で検討していきたい。

2. 公共施設の窓口業務に接客マナーの研修を

プラス1万人キャンペーンで、多くの観光客が訪れました。宿泊施設における接客や食事、また公共施設における観光客への対応について、当事者や住民から問題点を指摘されました。受け入れ側、お客様側双方に問題があるかもしれませんが、こうした不満を解決するために、公共施設の職員に対する接客研修を実施し、同時に接客マニュアルづくりを進めることが重要です。公共施設の窓口業務に接客研修を取り入れる考えはありますか。

持丸総務課長 町は接客マナーマニュアルで新人研修し、職員全体にも研修を実施している。今後も外部機関も利用し職員の資質向上に努める。

奥山 町は十分職員研修をしているといっていますが、ではなぜ文句や不平がこんなに多いのでしょうか。研修の成果や、接客マナーの評価はしているのでしょうか。

持丸総務課長 苦情は受け止めた。具体的に悪い点を指摘してほしい。委託先にはマニュアル本を配布しているのでこれを徹底させたい。

奥山 観光客の評価は、町の印象全般に影響します。プラス1万人キャンペーンの盛り上がりは今後も継続させていくためには、もてなしの精神とソフト面の充実が不可欠です。公共施設の窓口担当者だけでなく、ホテルや民宿などの従業員にも、町が補助をしてでも研修をしていただきたい。町独自のライセンスのようなものを発行し、バッジを贈る。つけている本人も誇りをもち、制服のような機能を発揮します。実現してほしいです。

ぶ・れ・い・く・た・む 「るにんせん」

3月、團伊玖磨先生のご子息で建築家の團紀彦氏を講師に招いて、島民大学講座が開かれました。1日目は建築物と環境の話、2日目は同氏が書いた小説「るにんせん」のお話でした。この著書は受講者全員に贈られました。

さっそく読みました。八丈島が流瀆の地であり、江戸時代多くの流人が送られてきた歴史は誰もが知るところですが、唯一島抜けに成功した事例があることは意外と知られていません。近藤富蔵、間宮林蔵、伊能忠敬など歴史上有名な人物も、主人公の喜三郎と複雑にからんで生き生きと描かれていて実に面白かった。事実ほど、感動と衝撃を与えるものはありません。

島の観光もいろんな切り口があっていい。マリンスポーツ、山などの自然を生かした観光。あるいは島の歴史や文化も忘れられないものだと思います。流人は暗いイメージがあると思いますが、その歴史をたどる過程には興味深いことがたくさんあり、優れた観光資源になると思います。為朝をはじめ徐福伝説もあわせて歴史にスポットをあて、観光振興に役立てたいものです。



支庁との話し合い == 5月9日八丈支庁・八丈町連絡協議会

八丈支庁は毎年町との協議会を開いています。支庁の管理職が前年の実績と今年度の事業説明をします。事前通告されていた議員からの質問にも担当課長が答えます。

都はきめ細かに事業展開をしている、というのが毎年参加した私の感想です。産業・土木・港湾・保健・教育庁・農林総合センターなどの各分野で、町の将来像を描きながら、最良の方法で最大限努力していることが理解できます。都は町に補助金・交付金を出して町の財政を援助していますが、こうした独自の事業もしています。

都の姿勢に一貫しているのは、町をバックアップする立場をとっていること。つまり、町が八丈島の将来像をどのように描いているのか、産業や観光についてもしっかりしたビジョンを示すべきだと考えているのです。たとえば自然環境の保全を考慮した開発や文化財の保存伝承の重要性などを訴えられ、そうした方向づけができるということを実現しました。

編集後記

先日、公開直後の「明日の記憶」という映画を見ました。アルツハイマー病による若年性認知症の実話をもとにつくられたそうです。企業戦士が突然病に倒れて戸惑う姿を支える夫婦愛に感動しました。観客の多くはシルバー世代で、人ごとではない感に共感し、主人公の運命に涙していました。高齢化社会をむかえ、お互い支えあう気持ちが大切ですね。

[このページのトップへ戻る](#)

[議会だよりのページへ](#)

[幸子の表紙ページへ](#)